

合意形成について

「子供たちから出された意見をどのようにまとめたらよいのか難しいです」と先生方から質問を受けます。学級会でよくあるのが、賛成意見はあまり言わないが、反対意見になると堰を切ったように言ってきて、重箱の隅をつつくような意見ばかり出る。折り合いがつけられずに意見の主張合戦になる…。先生方の困り感が一番多いところではないでしょうか。

合意形成をする際、多数決だけで決まるときがあります。ダメではありませんが、数の原理だけで決まってしまうと、提案理由や活動の目的など関係なく「自分がしたいこと」に決まることになりがちです。そして、少数意見は切り捨てられ、同調圧力が働き、多数決が学級の悪しき文化として定着する恐れがあります。そこで、多数意見でまとめていくことが基本ですが、少数意見も尊重し、生かす工夫はないか考えるようにします。提案理由に沿っているのか、実現可能なのか、自分たちで取り組むことができるものかなどの視点に沿った理由を大切にします。

それぞれの意見を比べ合いながら「折り合い」をつけて合意形成を図るようにしましょう。大切なのは、【互いの意見を尊重すること】、【自分の意見だけ主張することなく視点を変えて比較すること】、【他者と何が違うのかを明確にしながら話し合うこと】です。

始めからうまくできることを求めずに、前述したことを踏まえ、合意形成の方法があることを助言しながら、折り合いをつけられるよう指導していきましょう。下記ではドッジボールを例に合意形成の例を示しました。名称については学級の実態に応じて、子供との対話で決めてよいです。学級会の折に掲示すると良いでしょう。

合体		<p>一つに決まらないときに、意見を合体させます。学級会をしていたら、この形になることが多いです。細かいルールについては、後日実行委員会からのお知らせになります。</p>
優先順位		<p>意見が割れた時に、使います。どちらを優先しても良いでしょう。どうしても引っ込みがつかない子供でも、優先順位をつけることで折り合いがつけられるでしょう。</p>
少しずつ全部		<p>本来ならば1つに決めるようになっていましたが、どうもしもないときに、2つにします。時間が限られますので、実践する際には手際よく進むよう事前の打ち合わせを丁寧にする必要があります。</p>
条件		<p>一つに決まったけど、たくさんの賛成意見と反対意見（問題点を指摘する意見）が出たときに、問題点を解決するための意見を募ります。これだったらできるという条件をみんなで決めます。</p>
新しい考え		<p>これは、あまり見られませんが、その場で別の提案をするやり方です。みんなから出してもらった意見では、しっくりいかず、別のものを新しく出してみんなの合意を得て集団決定します。</p>
ゆずる		<p>この意見を言えるクラスは、支持的風土が醸成されていると言えます。自分の主義主張に固執するのではなく、全体を鑑みてとか、他者を慮ってということが育っています。</p>

